

第3回 長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成30年1月12日（金曜日）13時30分～15時10分

II 場 所 長浜市役所 3階 特別会議室

III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、北川貢造教育長、井関真弓教育委員
西橋義仁教育委員、川口直教育委員、西前智子教育委員
廣田光前教育委員

【オブザーバー】 大塚義之副市長

【事 務 局】 改田教育部長、横尾教育委員会事務局次長、清水教育指導課長、
堀幼児課長、土田教育改革推進室長、宮川すこやか教育推進課長、
上崎幼児課課長代理、北川総合政策部長、米田総合政策部次長、
野村総合政策課課長代理
ほか担当職員（4名）

【議事進行】 北川総合政策部長

【傍 聴 者】 1名

【報道機関】 なし

IV 内 容

1 開 会

2 市長あいさつ

（要旨）

- ・ 第3回目の長浜市総合教育会議の開催に際し、ご多忙の中出席いただいたことに感謝申しあげる。
- ・ 本日は穏やかな日に恵まれているが、先日までの降雪で余呉町の中河内では積雪量が70cmとなっており、同じ長浜市内でありながらも全く異なる環境である。長浜市の中にもこのような地域があるということを心に留め置いていただければと思う。
- ・ 長浜市総合教育会議は今年度2回開催し、前回は10月6日に、スクールソーシャルワーカーの方を交えて、本市の子ども達への生活指導実践活動の取組について、様々な意見をいただき、活発な意見交換ができた。この場をお借りし、改めてお礼申しあげる。
- ・ 3回目の今回は、「就学前教育の取組」について、意見交換させていただく。

- ・就学前教育については、安倍首相が「生産性革命」と共に政策の両輪として掲げる「人づくり革命」の中に、「3歳から5歳児の幼稚園・保育所の費用を無償化して、0歳から2歳児は所得が低い家庭で無償化する」ことが掲げられた。
- ・今後、国の施策が大きく動くことになるため、国の動きについて引き続き注視していきたい。
- ・本市では、国に先駆けて、滋賀県初の「所得に関わらず、保育料を第2子は半額にし、第3子以降は無償化」に既に取り組んでおり、就学前の子ども達、その家庭を市民全体で支え育む仕組みを作りあげた。
- ・就学前における教育は、生涯の人格の基礎を培ううえで大変重要であり、この時期の様々な体験を通じて得たことは、子ども達の成長の糧となって、将来の可能性を大きく広げることに繋がっていくものである。
- ・また、小学校に入学したばかりの子どもの中には、「学校生活に上手くなじめない」という、いわゆる「小1プロブレム」が問題となっており、幼児期と児童期の教育をスムーズに繋ぐためにも、就学前における教育・保育は重要なものである。
- ・乳幼児期において、家庭、地域と学校・園が連携し、子ども達の心身ともに健やかな成長を育んでいくことが「就学前教育」のあり方であり、今の教育行政の入口となるべきものであると思っている。
- ・私は常々「教育」とは、国家の百年の大計であると申しているが、子ども達は、地域の宝であり、次代を担う人材である。その子ども達をしっかりと教育し、そして責任ある大人へと育てていくのは、今を生きる私達大人の重要な責任であると考えている。
- ・昨年策定した「長浜市総合計画」においても、10年後の本市を見据えた中で、「教育」の充実を施策の大きな柱と定めた。そして国の諸施策をふまえ教育の内容の充実と環境整備をはじめとする様々な施策にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。
- ・今年4月には滋賀県初の施設一体型の義務教育学校「長浜市立余呉小中学校」が開校する。少子高齢化社会の中で、地域の実情に対応した教育環境を作りあげていくための新たな取組である。
- ・社会情勢が刻々と変化していく中、新たな教育のあり方が今後求められることになる。そのなかで、本市の子ども達の健やかな成長のために、教育委員の皆様と行政が今後の本市の教育のあり方について活発な意見交換を行い、共に考える機会として、この会議が有意義なものとなることを祈念し、挨拶とさせていただきます。

2 議事

「就学前教育の取組について」

事務局より就学前教育カリキュラムの概要説明と具体的な運動あそびの取組についての説明が行なった後、その後意見交換を行った。構成員から出された意見や質問は次のとおり。

〈意見：教育委員〉

園訪問に向かうとそれぞれの園の様子を見ることができるが、それぞれの園のおかれた環境や文化歴史を取り入れた教育も柱の一つとして取り入れていることに対してありがたいことだと思っている。

柳沢プログラムを取り入れた教育カリキュラムを整備されたことも長浜市が唯一ではないかと思っており、素晴らしいことである。

また、先生方の多忙なスケジュールを解消するために事務員を配置したりして、長浜市の就学前教育は大変充実していると思っている。

そこで質問であるが、先ほどの資料の中で、「運動あそび推進事業にかかる『5つのプロジェクト』」の中に、「小学校との連携」とあるが、運動あそびを中心として幼稚園、保育園では体力の向上に努めているが、小学校では、別のカリキュラムがある。ここでいう小学校との連携というのはどのようなものがあるのか。また、「運動あそびにおける効果の検証」の点について、資料では県との運動能力の比較が資料で示されているが、ここでいう県とは、全県の子どもの事を指すのか、調査の母体はどこか教えて欲しい。また、調査内容は25m走など、県が定めたものであるが、この調査で長浜市の運動あそびの効果が図れるのか疑問である。もし今後継続的に効果を測定するならば、市独自で調査項目を考えてもいいのかと思う。

〈事務局〉

「小学校との連携」についてだが、長浜市の園で運動あそびを取り入れて5年目になり、ようやく定着してきた。これからの課題としては、園で培った力を小学校にいかにつなげていくかである。運動あそびカリキュラムについては、まだこれからであるが、小学校のカリキュラムに連動してつなげていけるようにしていく必要がある。

運動能力調査については、県の調査項目は、指摘のとおり運動あそびに直結しているものではない。しかし、幼児期は様々な運動により体の基礎の力が付いてくる時期であるため、運動能力を調査することで、子ども達にどのような力が付いているのか、足りない力はどこにあるのかを調べることができると考えている。

足りない力がわかれば、カリキュラムにはないが新しい運動あそびの方法を取り入れる中で、補うことも考えられる。

調査結果が長浜市の園では県平均や標準値を下回っていることも、県のほうからは意見としてあがっており、今の結果だけ見ると、運動あそびが県の運動能力の調査基準に直結できていないのだが、今後、市独自の運動能力調査も考えていければいいと思っている。

県の運動能力調査の調査対象であるが、平成28年度調査は県内95園を対象にされている。県内で協力を得られた園のみが対象になっている。

〈意見：教育委員〉

長浜市のこの地域はとてもすばらしい地域であると思っているが、郷土への思い入れはあまり大きくないのではないかとと思っている。例えば、今現在開催されている長浜市の盆梅展は、私もいち早く向かい、観賞してきた。今年も大変きれいな梅の花が見れることになるだろうと大変期待している。このような長浜が全国に誇れる文化を地域の子供達に見せてあげることも必要かと思う。

また、この時期は白鳥が長浜市に飛来してくる。都会の人達も朝早くから写真を撮りに来ている。ある日、子どもの白鳥が岸边にいて、何をしているのかと思えば歩けない状態であった。そこで、周りの白鳥が子どもを親の元へ誘導している姿を見た。このような白鳥の心の優しさを長浜市内の子供達にも知って欲しいと思う。

本日の資料の中にも、長浜市就学前カリキュラムにおいて、「地域資源の活用」が重視する点として書かれている。長浜市のすばらしい地域資源を今後教育の中に活用して欲しい。

〈事務局〉

地域の自然、郷土愛については、子供達の心を豊かに、大きく育てていくということにつなが格うと思うので、今後も自然や郷土愛を育む心を大事にしながら、子供達を育てていきたいと思う。

〈意見：教育委員〉

私も園訪問を何度かさせてもらう中で、子供達のすこやかな学び、育ちを実感することができている。しかし、一方で小学校では、授業に集中できない、授業中立ち歩く、話に集中できないといった「小1プロブレム」の問題を聞く。園の取組は「運動あそび」として、遊びの中に工夫された学びを取り入れられている。ただ、印象として「遊び」の場面が多いように見える。小学校の先生からすれば、ずっと「遊び」をしていた子が、次の日から小学校に来て椅子にじつと座って先生の話をしっかり聞けるのかと心配することもある。当然ながら、年間のカリキュラムに沿って小学校にスムーズにつなげるような流れになっているとは思うが、そのあたりを確認したい。

〈事務局〉

園のほうでは学年に合わせて自由に遊べる時間と、先生の話をしっかりと聞く時間を設けている。学年が上がるにつれて、先生の話をしっかりと聞く時間、絵本のときは床に座って話を聞くというように場面に応じて話を聞く時間も設けている。こ

のように話を聞く時間も設けながら、小学校の環境に慣れていけるように工夫している。

〈意見：教育委員〉

確かに先生は子どもの前で本を読み、それぞれの活動の前に子どもに話を聞かせるという取組をしているところもあるが、園訪問では主に遊びの場面を見ていたため、遊び中心になっているという質問をさせてもらった。

また、園では子ども達に、遊びを通じた学びを教えている中で、印象的だったのが、ドッジボールのようなことを子ども達がしている際に、ちょっとトラブルになった光景を見た。その時、先生はじっと見守っている状態だった。どうしたのかと聞くと、先生は「子ども達だけでできるだけ解決ができるように」とのことで、作ったルールが上手くいかないときに、先生がすぐに解決するのではなく、子ども達に考えさせる時間を取っているとのことであった。遊びの中で関わりの力をつける、集団の中で他人を意識するということが相手の気持ちを考え、自分の気持ちを伝えるための工夫がされているのだと感じた。

もう一点、園の中で工夫されたカリキュラムを進める中で、ダンボールを使った準備物などは先生方が十分準備しておられ、時間がかかりかかると思うが、先生の勤務時間についてはどのようなになっているか。

〈事務局〉

園の保育士も超過勤務は一つの課題であると思う。園の準備物などは、例えば午前の保育と午後の保育では主担任と副担任が交代する。その際に主担任は翌日に備えた準備を行なう。

時には超過勤務もあるが、それぞれの状況に合わせて勤務いただいている。

〈意見：教育委員〉

保育士が少ない中で、「働き方改革」という言葉がいたるところで言われるようになってきた現在、新たな取組を期待したいところである。

〈意見：教育委員〉

今から15、6年前になるが、教育委員会に関わらせていただいて、その際にも園訪問をさせていただいた。教育委員になってからも4回ほど園訪問をさせていただいたが、当時と比べずいぶん就学前教育の環境は変わったと思う。別の教育委員会の園訪問をしているのではと錯覚するくらいに大きく変わったと思う。大きく変わる事となった教育委員会の施策としては、2つあると思う。

1つは、過去は、長浜市においても保育園は福祉課の管轄、幼稚園は教育委員会の管轄であり、保育園と幼稚園レベルでの話し合いがほとんどなかったように思われる。それが保育園も幼稚園も教育委員会で管轄するとなった。これは大きな改革

であったと考える。なかなか色々な問題があり、一本化することは難しかったわけだが、10年後の将来を見据えた上で非常にいい影響を及ぼしていると思う。教育委員会の施策として英断の一つであったと思う。

2つ目は、教育委員会が柳沢プログラムを教育カリキュラムに取り入れ、運動と脳の関係を研究することを始め、現在は運動あそびプログラムとして実践しているが、そのカリキュラムができるまでは職員が柳沢先生のところに向かい、柳沢プログラムのエッセンスを吸収してきた。このような取組によって、長浜市の就学前教育は大きく前進した。

また、初めて幼稚園と保育園が一体化した認定こども園が出来上がったのは、六荘認定こども園であるが、当時は、幼稚園の先生と保育園の先生の考えが合わなかった。幼稚園の教育要領と保育園の保育指針に基づいてきたため、どちらの意見を採用していくのか苦労していた点はあるかと思う。今は長浜市の職員は、保育士の資格を持っていながら幼稚園の免許も持っている人を採用していると思うが、これも大きな改革ではないかと思う。

これらの改革によって大きく前進したと思うが、ようやく就学前教育については、スタートラインに立った状態であると考え。これからどうしていくか、長浜市としては3つ目の改革をどのようにしていくかを考えていく時期でないか考える。

〈意見：教育委員〉

昨年、園訪問に向かわせてもらい、子ども達が元気に遊んでいる姿を見たが、こういった運動プログラムは、楽しく遊んでいる中に、自然と体を動かすという仕組みが考えられていて、子ども達ができる、できないという不安をもたずに、楽しく遊べる場面をたくさん見させていただいた。遊びたくなる工夫がされていると感じた。今はどうしても外遊びをする子ども達が少なくなってきて、運動あそびも室内での遊びに主眼が置かれているように見えるが、自然の中で思いっきり遊んで、石につまずいて転ぶといった経験も必要だと思う。運動あそびにあわせて自然の中で体験して遊ぶということも大切にして欲しいと思う。

〈事務局〉

一つの柱として柳沢プログラムを利用した運動あそびがあるが、自然の中で思いっきり遊んで、山に登ったり、川に入ったりする教育も取り入れているので、そちらの方も大事にしていきたいと思う。

〈市長〉

現場の先生方には、改めて就学前教育の重要性などを教育していただく機会などは設けられているのか。園長先生をはじめとする先生方の意識改革などにも取組んでおられるのか。具体的な指導についても、どのように先生は学び、学んだことを実践に移し、工夫しておられるのか。

2点目として私立の認定子ども園や保育園、許可外の英語教育に力を入れる保育施設もある。公立の学校の工夫や苦勞も聞かせてもらったが、民間は民間で色々なアイデアを持って積極的なカリキュラム作りを頑張っている。

例えば、園内の表示は全て漢字表記にし、漢字かな交じりの絵本の音読、ヒップホップダンスなど民間らしいカリキュラムがある。また音楽で体を動かす試みや英語教育などを取り入れているところもある。

現在の公立のカリキュラムをなお充実させるという意味合いで、民間の行っている取組も大いに参考にしてもいいかと思うがいかがか。

〈事務局〉

現場の先生の指導については、常々より教育長からも「0歳から15歳までの一貫した学び」ということで話をいただいている。小学校入学の入口となる就学前教育の取組については常々園長会などで話をさせていただいている。

その中で今は就学前教育カリキュラムが定められており、今は幼稚園でも保育園でも認定子ども園でも同じカリキュラムが取り入れられている。

就学前カリキュラムにおいても、運動あそびについても、研究委員を指定しており、研究委員を中心にして研究を進めており、研究結果を各園に持ち帰り実際の保育の場面を見ながら指導している。

今年は5名の保育士を運動保育士資格の資格取得のために研修に向かってもらい現在中級まで資格取得した。来年度上級まで資格取得する予定である。思いとしては各園に1人ずつ配置したいと思っている。

民間の保育園の取組については、年に数回指導に回らせてもらっており、それぞれの園独自のカリキュラムで特色ある保育がなされている。民間園のこのようなところは大事にしていきたいが、長浜市の子どもの教育であるので、長浜市が定めた就学前カリキュラムや運動あそびを提示して要請があれば出向いて研修などをさせていただいている。

〈事務局〉

資料3、4に基づき、就学前教育に係る人材確保の現状と課題、子ども子育て支援事業について説明

〈意見：教育委員〉

保育士不足、待機児童ゼロという課題は全国的な問題であり、長浜市だけの取組ということは難しいかもしれないが、資料4の中にある、「幼児教育の振興、子育て支援の充実」に記載されている国の施策について、「政府は、「幼児教育・保育無償化」や「子育て安心プラン推進」を含む『人づくり革命』の取組として、2兆円規模の政策パッケージを平成29年12月に示すとしています。」と記載されているが、既に国の方から話は出てきていると思うが、この中で、この国の取組を利用

して、長浜市はどのような取組をしようとしているのか。

また、潜在保育士が全国で76万人もおられる中で、保育士になられる方が少ないという現状について、財政を伴うことなので難しいことであるが、解決策は思い切って保育士の給料を引き上げることではないかと思うが、このような抜本的な解決策はないものか。

〈事務局〉

国の政策パッケージについては、いくつか提示されているが、今後詳細な内容が提示されてくる。まずは、国の動向を見ながら、それに従った形での施策の展開を考えていきたい。

長浜市の保育士の給料等については、奨学金の返還支援の取組に関して進めているところであり、保育士等の就職定着支援事業として、3年間勤務してもらうと、20万円交付するといった取組も考えている。また保育士の居住支援事業として家賃相当分を補助するような取組なども考えている。

〈意見：教育委員〉

個人的には解決策は賃金を上げるしかないと思っている。保育士だけを上げるということは難しいかもしれないが、将来を担う子ども達の成長に関わる仕事であるので、思い切って賃金を上げるといった施策が必要ではないかと考える。

〈事務局〉

就学前教育という重要な時期の教育に携わっていただいている保育士に関しては、小学校、中学校の先生と同じ水準で給料をもらっていただくことも重要であると思っており、今後も検討を進めていきたい。

〈意見：教育委員〉

潜在の保育士については、資格を取ってから数年経ってからピアノの勉強をしたりすることが大きなハードルになっていると思うので、勉強のサポートをしたりするサポート体制を考えていく必要があるのではと考える。

保育士の確保については、将来の人格形成に関わる仕事として、保育士の仕事としてモチベーションをあげるような仕組みも必要であると考えます。

〈事務局〉

教育を行なううえで「物」と「心」両面が必要であると考えます。「物」の面はハードルが高い面があるが、先生、子ども達の「心」を育てていくことについては、工夫次第でできることもあるので、今後も考えていきたい。

3 その他

〈事務局〉

本日の議事録については、内容を委員の皆さまに確認いただいたのち、ホームページにて公開する。平成30年度第1回目の総合教育会議については、5月から6月ごろに開催を予定している。

4 閉 会

教育長あいさつ

(要旨)

- ・ 本日は短い時間であったが、就学前教育の取組について色々な側面からご意見をいただいた。教育委員会ではご意見を参考に、来年度以降の政策に活かしていきたい。
- ・ 私が市長から教育長の任を受けたときに、市長からは、「教育は国家の百年の大計」、「三つ子の魂百まで」とおっしゃられた。その言葉を元に教育長として勤めてきた。
- ・ 教育行政において長浜市では今は就学前教育に力を入れている。昔に比べ、今の長浜市の就学前教育は相当レベルアップしている。
- ・ 今は「私は幼稚園職員」、「私は保育園職員」といったようなことを言っている人はいない。幼稚園教諭は「今度は保育に関わりたい」と意欲を見せ、保育士は「次は幼稚園教諭として関わりたい」と意欲を見せる。そのような教育集団は全国でも他にないのではないかと思う。
- ・ このような成果は、教育委員会が保育園と幼稚園の一元化を進めてきたことの成果である。しかしまだ雪山で例えると3合目くらいまでしかたどり着いていない。これからの取組が重要である。
- ・ 小中学校の教育行政に責任と権限を持っているのは滋賀県教育委員会であるが、就学前教育については、長浜市が責任を持っている。全て長浜市が行なわなければならない。市長をはじめとする長浜市は全て担う覚悟を持っている。市長は常々「教育と福祉は藤井市政の2本柱」とおっしゃられるが、それは、その覚悟の現れである。
- ・ 長浜市の就学前教育はこれからである。本日の意見を参考にこれから一層取り組んでいきたい。

15 時 10 分 閉会